

「花の番付」

小笠原 誓

日経新聞は年末になると、その年のヒット商品番付を発表しています。番付とはもともとは相撲の順位表です。ただ一位から順に表記するランキング表とは様相を異にします。番付はまず全体を東西に分けて、同格のものを対称にして表記しています。つまり番付は同格のライバルをはっきり表していることです。また幕内、十両などランク分けも番付の表の組み方の中であらわされています。

江戸時代、様々なジャンルで「見立て番付」が作成されました。各地の名所、名物をはじめ、歌舞伎役者など芸能の番付、方言の番付、さらには誤字脱字や阿呆の番付など、ありとあらゆるものを番付にして楽しむ文化がありました。その中に様々な園芸植物も番付として残されています。江戸時代に流行した伝統植物の品種をはじめ、各地の松や桜の名木なども番付で残されています。江戸時代、花文化が大きく開花し、公家・大名のみならず、武士や町人も身分を超えて一好事家としてお互いの情報交換をしていました。花作りを楽しむ人々は、作ったものを評価し合う品評会を各地で開催しました。その品評会の記録として番付が作られ、今も多く残っています。

見立て番付には、いわゆる「別格」の位を用意しているものもあります。たとえば毎年上位に君臨する常連を、行司、勸進元など取りのいい役に移動させて、次世代のスターに上位を空ける機能も持ち合わせてい

ます。日本らしいシステムです。ヒット商品を次々に表すよいシステムだと思います。番付で面白いのは、「なぜあの品種が入っていないのか」との問いに対して、主催者の常套句として、「今回記載がない品種は次回に掲載云々」と左隅に表記されています。

これも日本的です。

少し前の話になりますが、花葉会元幹事長・岩佐吉純氏、愛知県農業試験場元場長・米村浩次氏、父、私で西暦2000年に花の番付「二十世紀名花百撰見立競」を作りました。20世紀を代表する100品目の園芸植物から各1品種選んだ番付です。東の大関にはバラ‘ピース’を選びました。20世紀は前半に戦争が続きましたが、その後平和な時代になった時にできた象徴としてこの品種を選びました。西の大関は80年代に一世を風靡し今日もお現役の、ユリ‘カサブランカ’です。

現在も伝統園芸植物の世界では番付の作成が続けられています。番付の作成は非常に面白く、なぜこの品種を選んだのか、なぜこの位置なのかは、作る組織、作者によって百種百通りになります。

直近の番付は、現代の相撲番付を見てもわかるように、過去を振り返るものではなく今を表すものです。時代が平成から令和になり、様々な視点からの花番付を作り、「今」を見てみませんか。

花葉

2019
NO.38

目次

禁無断転載

私の提案 「花の番付」	小笠原 誓 (1)
卸売市場法について	福永 哲也 (2)
第35回全国都市緑化やまぐちフェア「山口ゆめ花博」に参画して	石光 照彦 (6)
Making of『野ばらハンドブック』	御巫 由紀 (11)
日本ガーデンドesign専門学校の紹介	佐々木秀典 (16)
大学助教から農家へ変身！～花卉農家だからできる新しい取り組み～	松原 紀嘉 (19)
洋ラン生産と販売の変遷 通販からネット販売へ	鈴木 眞隆 (23)
『いいね！ フリージア』	文蔵 雄嗣 (27)
自叙伝抜粋 現在一過去一未来	望田 明利 (31)
園芸別科の歩みと思い出少し	北条 雅章 (35)
追悼 追悼の言葉、故武田和男様を偲んで	須田峻一郎 (40)
追悼 齊藤正二さんへの吊辞	三位 正洋 (41)
追悼 林 角郎 氏追悼	柴田 忠裕 (42)
表紙解説 中国栽培バラの起源種ロサ・キネンシス・スポンタネアを求めて	上田 善弘 (45)
花葉会海外園芸事情調査報告 ロシア「バイカル湖」の花の観察紀行	佐藤 裕子 (46)
「2019年花葉サマーセミナー&交流会」レポート	高橋 耕一 (50)
花卉園芸学研究室レポート（松戸キャンパス） 花卉研の日々	杉田 晴哉 (53)
花卉園芸学研究室レポート（柏の葉キャンパス） 花卉業界の活性化に向けて	下重野乃香 (54)
花葉会総会 (55) 花葉会賞受賞者紹介 (60) 会員名簿の追加と訂正 (62)	
一般社団法人 花葉会定款 要綱・幹部会員名簿 (63)	